



翔べ！松中生

令和5年度 第4号 6月30日発行

「一学期のまとめ」

校長 齋藤 明

梅雨から夏へと季節が移る中、昇降口前のツバメたちも大きく成長して、巣立つ準備が少しずつ近づいてきました。また、6月には、学校総合体育大会や修学旅行があり、3年生にとっては「集大成」とも言える行事の連続でした。

学校総合体育大会は、県大会予選という形式ですので、県大会出場が叶わなければ引退という厳しい状況です。しかも、最後の大会ということもあり、極度の緊張を経験した選手もいたでしょう。そんな中、県大会出場を果たした男子バスケットボール、男女バドミントン、陸上競技、水泳の各部の皆さんおめでとうございます。今後の県大会での活躍を応援しています。また、結果として負けてしまった試合の中にも、試合中、最後まで一生懸命に戦い抜く姿や必死に声援を送り、プレイヤーとベンチとの一体感を感じた瞬間も数多くあり、とても嬉しく思いました。

「頑張りやり切った3年生の皆さん、感動をありがとう！」皆さんの思いを後輩達がいしっかりと受け継いでくれることを期待しましょう。

また、修学旅行は3年生にとって3回目の宿泊行事でした。今までの経験を活かし、修学旅行実行委員が時間をかけて、綿密な準備をしながら、この行事が成功するように導いてくれました。本当に有り難いことです。この3日間を通じて、班別行動・係の仕事・部屋での協力などの大部分は成功して成果を感じることができました。さすが3年生と思いましたが、一部で約束事が守れないなどの軽率な行動など、課題も見つかりました。最上級生としての自覚と行動において、今後の更なる成長を期待したいと思います。

さて、皆さんは、**我以外皆師（われいがいみなし）**という言葉を知っていますか？

この言葉は、「宮本武蔵」や「新・平家物語」の著者としても知られる歴史小説家・吉川英治（よしかわ えいじ）さんの作中に登場した言葉です。意味は、「自分以外の人すべて、自分の先生である。」と言うことです。「え～、すべての人？」と思う人も当然いるでしょう。きっと多くの人は、尊敬できる人の言葉を受け、それを心に刻んでいると思います。もちろん苦手な人からの言葉や理不尽な人まで先生と思うことは中々できることではありませんよね。

でも、考え方を変えると、学校は集団生活の場ですから、同級生や先輩後輩、先生方など沢山の師で溢れているとも言えます。自分が、今まで思ってもみなかった**我以外皆師**という考え方で、今まで以上の成長ができるかもしれませんね。

さあ、7月は学期末です。これまでの学習の成果・確認としての期末テストから始まり、学期を振り返りながら自分の成長を感じたり、反省を次に活かしたりすることができるように生活の再スタートを考えていく時期でもあります。

「よりよく生きる」ために、じっくり考えて行動に活かしていきましょう。